

埋文やまがた



1999年3月31日
第13号



朝日町八ツ目久保遺跡出土の注口土器

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

朝日町 八ツ目久保遺跡

八ツ目久保遺跡は西村山郡朝日町大字四ノ沢字八ツ目久保にあります。標高約145メートルの最上川右岸の段丘の低い位置で営まれた遺跡です。調査は国道287号道路改良工事に伴い1997年7月28日から10月30日までの約3ヶ月間おこないました。

調査の結果、縄紋時代中期（今から約4千5百年前）の集落跡が見つかり、整理箱にして88箱の縄紋土器や石器類が出土しました。

また、縄紋時代の^{おと}陥し穴も30基以上見つかりました。動物が通るけものみち^そ沿いに穴を掘って、狩りをおこなったと思われます。

当時の人々は、水や魚を求めて山を下りてきた動物たちを^{しと}仕留め、生活の^{かて}糧としていたのでしょう。「母なる川」最上川は動物たちにとっても、縄紋時代の人々の生活にとっても、なくてはならない存在だったことが発掘調査からもくみとれます。



遺跡遠景と最上川（南方向から撮影）



石囲い炉がある竪穴住居跡



逆さに伏せられた土器の中に、入れ子状態でさらに土器が入っている、右は突き刺さった状態の磨製石斧。



逆さに伏せられた土器上半分の出土状況

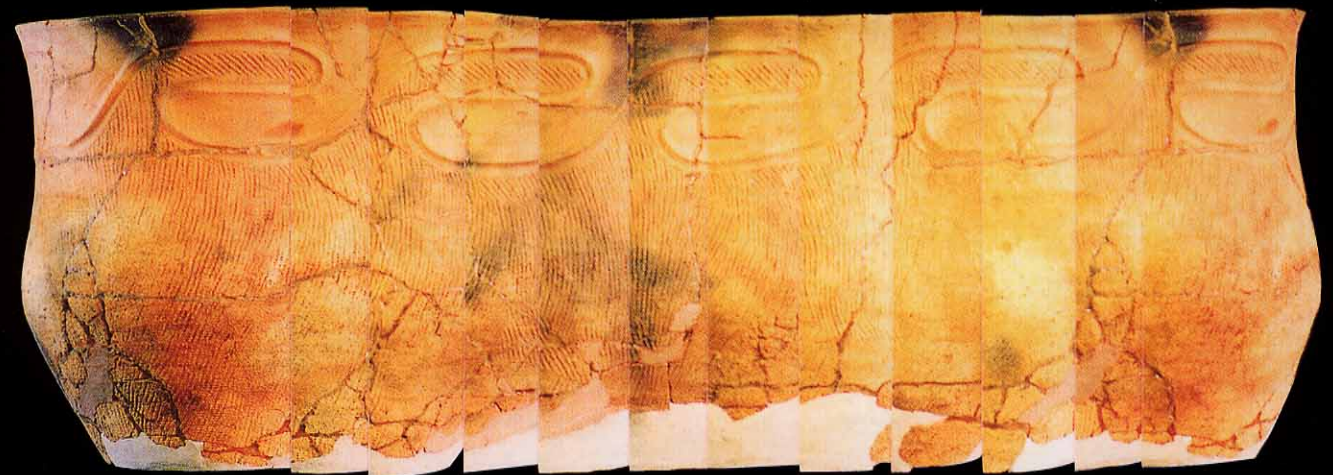
八ツ目久保遺跡では^{ぼてい}馬蹄形に石で囲った炉を持つ、竪穴の住居跡が見つっています。左上の写真にあるように、床に深鉢が上下半分に割られ、分割されて置かれており、その特異な出土状況が目立ちます。底部が伏せられた土器の中には、入れ子状態で小型の打ち欠かれた土器の胴部が入っていました。そのかたわらからは磨製^{まぜい}の石斧^{せきふ}が刺さって出土しています。これは住居から離れる際におこなわれた、おまじない^{まじない}のような儀式^{しき}の跡ではないかと思われます。



縄紋土器深鉢 大木8 b 式期



縄紋土器深鉢 大木10式期



縄紋土器深鉢 大木10式期

土器の展開写真

本遺跡では縄紋時代の中期中葉から末葉にあたる時期の土器が出土しています。縄紋時代中期後半に東北地方の南半部を中心にした地域では、渦巻紋うずまきもんを主体にした紋様が施された土器が多く作られていました。研究者の間ではこれらの土器を大木8～10式期の型式として、土器の編年を考えています。

土器の紋様がどのように施されているかを調べることによって、当時の人々の動きや精神生活を探ること

ができるのではないかとという研究もされています。

上段の「展開写真」は、土器の紋様構成もんようこうせいを探る上で有効な手段で、これまでも縄紋土器の研究に用いられてきました。写真は土器を少しずつ回転させながら撮影したものを、つなぎ合わせてつくったものです。

時間の経過とともに作り方が変化し、渦巻紋が退化し、縦に展開していた紋様が横に展開していく様子がこれでよくわかるのではないのでしょうか。

(佐竹桂一)

米沢市

米沢城跡



調査区近景（北方向から撮影）



堀底、畝の検出状況

米沢城は米沢藩主上杉氏の居城です。現在本丸跡には謙信公を祀る上杉神社があり、多くの観光客が訪れています。上杉神社東南の二の丸にあたる部分に県立置賜広域文化施設と米沢市立博物館（仮称）の建設が計画され、それに先立って1998年の7月から11月に、米沢市教育委員会と当センターが調査区を分割した合同調査をおこないました。

本丸の堀は現在も水をたたえています。二の丸、三の丸の堀は明治時代から大正にかけて埋め立てられてしまい、ごく一部しか残っていません。今回堀跡を大規模に発掘調査したことによって、絵図や文献史料からはうかがい知ることのできなかったその構造が明らかになりました。

堀跡は長さ約100メートル、幅40メートルの規模で見つかり、深さは現在の地表から約4メートルあります。底には縦横に畝が残されており、このような堀を「障子堀」といいます。敵兵の移動を妨げる目的で造られました。

この堀跡からは、二の丸が整備された17世紀はじめから現代にかけての様々な遺物が見つかりました。なかでも水分が多い土壌からは、通常は腐って無くなってしまいう木製品が多量に出土しました。民俗例や絵巻物などを見ると、生活に使った道具は大部分が木製であることがわかります。そういったものが腐らずに出土したことによって、当時の人々の、より実態に近い生活の様子を知る手がかりになります。

また、堀の内側は絵図によればお寺のあった場所でした。それを裏付けるように、寺院の名前や、梵字で光明真言を墨書したかわらけが出土しています。なお、完全な形で見つかった刀などもお城にふさわしい遺物といえます。

(高桑 登)



かわらけの縁に光明真言を墨書



かわらけの底に墨書「正福院」



かわらけの底に人面墨書



刀の出土状況



かわらけの墨書「伍百八拾斗 寛永」

遊佐町 小山崎遺跡



遺跡遠景（南西方向から撮影）

小山崎遺跡は1995年県教育委員会により発掘調査され、その出土品の質、量から見て注目に値する遺跡であることが判明しました。このたび山形県立博物館により重要遺跡の確認調査が1998年の7～8月におこなわれました。ここではその成果の一部を紹介したいと思います。

遺跡は飽海郡遊佐町大字吹浦字七曲にあります。今から約7千年前の縄紋時代早期末から2千5百年前の縄紋時代晩期まで、約4千5百年におよぶ長い間存続していました。これは遺跡に長い年月徐々に積もった土砂に混じって出てくる土器の時代区分（年代）からわかりました。

確認調査のため4メートル×10メートルの調査区を二つ設けるといった限られた範囲でしたが、建物跡と見られる柱列や石を並べた配石遺構、また杭が打ち込まれた水場遺構などが見つかっています。

出土品は縄紋土器、石器、土製品、石製品、木製品、骨角器、動物遺体、植物遺体など多種に渡ります。

なかでも漆塗りの土器と木製品、動物形の土製品、骨で作られた釣り針、シカやイノシシ、トドまたはアシカ類の海獣の骨などが注目されます。

今年も調査が予定されており、その成果が期待されるどころです。

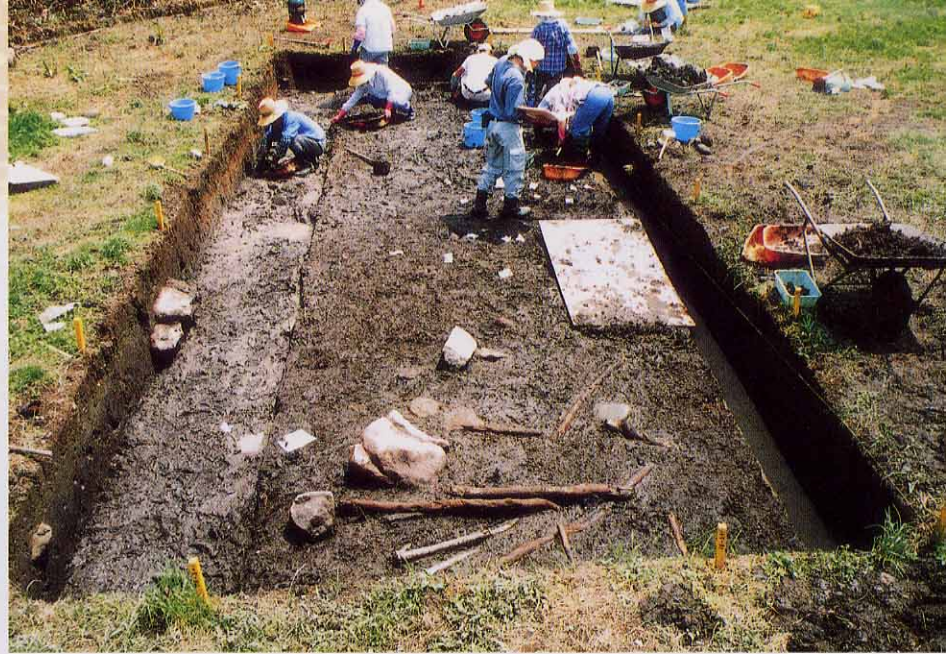
（写真提供：山形県立博物館）



イノシシ形の漆塗り木製品



イノシシ形土製品（腹面）



発掘調査風景



海獣の肩甲骨出土状況



漆塗り木製品出土状況



骨で作られた
釣り針

0 1cm 2cm



シカ骨出土状況

埋文センターのうごき

近世城郭調査課程に参加して

調査研究員 齋藤 健

1999年1月28日から2月3日までの1週間、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターで「近世城郭調査課程」の研修を受けました。近世城郭研究の第一線に立つ講師11人から、石垣積みの方から伝統的な都市景観を生かした都市計画の立て方などを学びました。このさい遺物に関する話は一切無しで、整備・修復事業に関するかなり実践的な内容でした。

受講者は全国から31人集まりましたが、実際城郭の調査に携わる市町村職員が多く、研修担当者が「こんなにみんなが熱心に受ける研修は初めてだ」と感心しておりました。

講義では先生方の学説が必ずしも一致しておらず初め戸惑いましたが、様々な説があることを心に留めながら調査してほしいという、研修担当者の配慮とのことです。しかし、豊臣秀吉や徳川幕府が全国の大名に命じた「天下普請」が最新の築城技術を全国に広めたとの見解は一致しておりました。なかでも「建物を不十分な資料を元に想像で再建するのは意味がない。逆に誤ったイメージを植え付ける。ましてや中世の技法を用いて古代の建造物を再建するなどは論外だ。どうしてもしたいならC.G. (コンピュータグラフィックス) で再現し、新事実が判ったら修正していった方がよい。」などの話もあり、自分にとって新鮮な驚きがありました。

2月2日は大阪城で実際の石垣修復作業を見学しました。大きな裏込石（石垣が崩れないよう裏側に積み上げた石積み）に研修者から「うちの城の石垣と同じくらいの大きさの石や！」との感嘆の声があがり、天下普請の大規模さを実感できました。

また、割れてしまい新しく取り替える石には、同じ産地から同じ大きさの石材を切り出し、表面の調整は昔と同じく鑿たがねと玄翁げんのうを使うとの説明を受け、可能な限り元どおり復元するというこだわりをいたく感心しました。

主要都市のルーツのほとんどが近世城下町にあり、その成立期は江戸時代初期に集中しています。近世城郭は現在、街のシンボルとして整備・修復事業がおこなわれていますが、不十分な資料を元に安易に修復・再建が行われたり、天守閣のある本丸以外の施設が軽視されたりするという傾向もあるようです。山形県内にも山形城、鶴ヶ岡城、米沢城など多数の近世城郭跡があり、これらの発掘調査もおこなわれ史跡整備事業

も進んできています。研修の期間は短かったですが、非常に中身の濃いものでした。今後学んだことを機会ある毎に活かしていきたいと思います。



石割の道具 タガネとゲンノウ



石割の実演



クサビによる石割り

編集後記

ハッ目久保遺跡の土器の展開写真はいかがでしたか？ただ眺めているだけよりも、土器の紋様の構成がよく判ったのではないのでしょうか。このように通常では見られないものを違った視点から見つめる開発が新たな考古学研究の糸口になります。(郊)